

令和 7 年度 第 1 回神戸市総合教育会議

と き 令和 7 年 7 月 17 日 (水)

13 : 30 ~ 15 : 00

ところ 神戸市役所 1 号館 14 階 大会議室

神戸市企画調整局大学・教育連携推進課

1. 開 会

○企画調整局大学・教育連携推進課

それでは、定刻となりましたので、ただいまより令和7年度第1回神戸市総合教育会議を開会させていただきます。以降の進行につきまして、久元市長、よろしくお願いいたします。

○久元市長

よろしくお願いいたします。今年度初めての総合教育会議ということですが、コベカツをテーマに取り上げることといたしました。部活動の地域移行というのは全国的に取り組まれているわけですが、神戸市の場合には期限を区切って平日・休日ともに移行するということを決めた政令指定都市ということで、全国的にも極めて珍しい例で、注目が集まっています。私もほかの市の市長からコベカツについて聞かれることがあります。同時に、市民の間でも非常に関心が高まっているわけで、今の中学生、それから将来の中学生がこのコベカツによって豊かな放課後の時間を過ごすことができるようにしなければいけない。今の中学生あるいはその保護者の皆さんにしっかりと説明をしていくということが不可欠ですね。

それだけではなく、神戸の中学校を卒業した市民の皆さんは、やはり部活動に対して相当思い入れがあります。多くの市民の皆さんは、こんなこと言っているのかどうか分かりませんが、授業よりも部活動のほうが中学生生活だったという皆さんもたくさんいますよね。部活動によって自分は鍛えられた、部活動によって生涯付き合うことができる友達ができ、部活動というものに対して非常に思いがある中で、部活動がなくなるということについて、子供のころの自分の経験に照らしても、子供の成長にとって本当にそれがいいのかという疑問を持たれる、それは当然のことだと思うのです。そういう当然の疑問に対してしっかりと答えていかなければいけない。教育委員会は覚悟を持って取り組んでおられると思うわけですが、市長部局もそういう思いを共有して、時間は限られているわけですから、一緒に取り組むことができればと思っ

ています。

今日は、総合教育会議で公開の場ですから、現在の状況に関する情報共有をするとともに、今までの取組の中で、課題というものが浮き彫りになってきています。課題について、一つ一つ、今後どういうふうに克服していくのか、教育委員会の先生方と議論をすることができれば、そして市長部局も加わった形でこの課題の解決に取り組んでいく契機とさせていくことができればと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず事務局からコベカツの現在の取組状況と、それから課題も合わせて説明していただければと思います。

○教育委員会事務局部長（コベカツ推進担当）

それではコベカツの取組、現状、課題につきまして御説明させていただきます。

まずコベカツの取組の背景につきまして、御説明をさせていただきます。現在の中学校部活動につきましては、生徒数の減少とそれに伴う教員の配置人数の減少などにより、毎年どこかの学校で部活動が廃部であるとか、休部せざるを得ない状況が生じております。そういったことから、子供たちが選択する部活動の種類が少なくなっており、学校によっては、種目、活動が選べない、そういった状況が生じております。

次に部活動に起因するトラブルの増加です。部活動の顧問の約半数は自身が経験したことの無い種目や活動を担当しています。そういった中で保護者、生徒が部活動に求めるものも多様化してきております。例えば大会でよい成績を上げることが求める方、運動などに親しみながら友人と楽しむことを求める方、こういった様々な思いが混在し、目指すものが異なることで、両者ともに満足することができずにトラブルやけがなどが生じることも出てきております。

最後に生徒や保護者の意識の変化です。より楽しみたいという意向に変化をしてきているというようなこともあります。現在の部活動にはない活動、例えばダンスや料理など、こういったものにも取り組みたいという意向も確認をしております、現在

の部活動の中ではなかなかそのニーズに応えることが難しくなっているといったような状況もあります。そういった背景の下、令和8年8月に部活動を終了し、9月から平日休日ともにコベカツを開始するということで現在取組を進めているところです。

地域の様々な団体の皆様の御協力をいただきながらコベカツに移行することで、子供たちが今までの部活動ではできなかった、校区を越えてやりたいことに主体的に参加できるようになります。その中で、多世代交流や地域活性化につながっていくといったことを考えています。

さらに、学校におきましては、これまで部活動があることで、十分には取り組めていなかった教育活動の充実にしっかりと取り組んでいきたいと考えています。

コベカツが始まることで子供たちがどのように活動を選択していくのか、またコベカツクラブはどのような団体が運営していくのか、スポーツと文化活動で一例をお示ししたいと思います。その前に、コベカツに移行することで活動の場所や活動の時間の考え方が現在の部活動とは変わりますので、その点について御説明をさせていただきます。

活動の場所についてですが、学校によっては一つのグラウンドの中で、例えば、野球、サッカー、陸上などがネットなどで区切られたエリアで工夫をしながら、目一杯活動ができないような状況で活動をしています。また、体育館種目であっても活動日の割当てがなかなか回ってこないということもあって外で活動するような場合もあります。コベカツになれば、中学校施設を各コベカツクラブが広く使用してもらえるように教育委員会で活動場所と時間を調整していきます。もちろん、中学校施設にかかわらず、利用料がかかるかもしれませんが、民間の施設や神戸市立の施設を活動場所とすることも可能です。生徒は自分の学校以外で活動するコベカツクラブにも参加することができます。

次に、活動時間についてですが、現在は授業がおよそ15時過ぎに終わりをまして、い

わゆる終わりの会などを終えると15時30分頃になります。部活動の準備をして16時前くらいに部活動を開始しても、完全下校は17時となりますので、平日はおよそ1時間程度しか活動できていません。週当たりですと7時間程度の活動ということになります。コベカツでは活動時間につきましては、平日16時から20時30分のうち最大で2時間、休日は9時から18時までのうちの最大で3時間。休養日を週当たり2日ほど設けていただきますので、1週間の活動時間は最大で11時間程度までとることが可能です。もちろん、これより少なくても結構です。

ではサッカーの事例を挙げて御紹介をさせていただきます。A中学校のサッカー部に所属している生徒が、来年度も引き続きサッカーをしたいと思った場合を想定しています。現在の部活動は先ほど御説明させていただいたとおり中学校が運営しており、指導者は教員か部活動指導員です。活動場所は、A中学校のグラウンドで、ほかの部活動と一緒に工夫をしながら活動しています。活動時間も平日は1時間程度となっています。これがコベカツに移行した場合、想定の子供たちクラブでは、部活動のOB・OGのグループが立ち上げて、指導者は資格を有した専門の指導者が指導します。活動場所は、A中学校のグラウンドを活用しますけれども、より広く使っていただくことが可能です。活動時間も、現在の部活動よりもしっかりと練習して大会でよい成績を上げることが目標とした、そういったコベカツクラブになっています。別のフットボールクラブ、これは子供たちのために保護者の有志が立ち上げたコベカツクラブで、指導を希望する教員が指導します。活動場所は、B中学校のグラウンドを使用し、活動時間は平日を2日程度、休日も2時間程度としています。こちらはしっかり練習するというよりは、むしろサッカーに親しむ、友達と楽しく過ごすことに重点が置かれています。生徒は、こういったコベカツクラブの活動方針や指導者、また会費の中から自分が在籍する中学校に限らず、自分に合ったクラブを選択することが可能になります。

次に吹奏楽の例を挙げます。現在の中学校の部活動の状況は先ほどのサッカーと同

じです。コベカツクラブでは、〇〇ジュニアオーケストラ、これは民間のオーケストラ楽団が運営主体となりまして、専門性の高い指導者によって中学校の施設と民間施設、ホールなどを使ってしっかりコンクール出場を目指して取り組む団体です。一方、〇〇吹奏楽クラブは保護者の有志が立ち上げた団体で、吹奏楽の経験者である保護者が指導してB中学校を活動場所に週3日程度、楽器に親しむことを目的に立ち上げたコベカツクラブです。生徒は先ほどと同じようにしっかり練習してコンクールを目指すコベカツクラブを選択することもできますし、例えば楽器に親しむ活動をしながら、時間的に余裕ができれば、地域のボランティア活動をするコベカツクラブに参加する、こういった形で複数のコベカツクラブに参加することも可能です。このように、コベカツでは校区を越えてやりたいことを自由に選択することはもちろんですが、コベカツクラブの運営主体である地域や保護者の皆様、ほかの中学校の生徒など多様な世代とともに交流をしながら活動していくことも一つの大きな特徴となります。

コベカツクラブの第1次募集の結果について、スポーツでは例えばダンスや空手、ボルダリングなど、文化芸術の分野では料理、農業など、これまでの部活動にはない種目や活動も多く御申請いただいている状況です。

また1次募集の時点では、現在の部活動で部員が多い種目と比較して、特に不足が見られる種目・活動があると認識しています。全市的には軟式野球、女子バレー、ソフトテニス、卓球、吹奏楽、美術が、各区ではこの全市的に不足している種目・活動に加えて、いくつかの種目が不足をしていると認識をしています。

コベカツクラブの確保に向けた取組といたしましては、コベカツ人材バンクの設置をしております。例えば保護者の中で子供たちのためにコベカツクラブを立ち上げたけれども、なかなか指導まではできないといった方のお声をよくお聞きしますので、こういった指導者を探している団体と、あとはコベカツクラブを立ち上げるのは難しいけれども、コベカツクラブに所属をして指導することはできますよといった部活動指導員でありますとか教員、こういった方々もおられますので、こういった方々をマ

マッチングするようなことをしています。現在、指導を希望する教員、部活動指導員は合計164名、指導者を探している団体は37団体、これらのマッチングを順次進めています。さらに大学生が指導者として参画できる仕組みの構築や、企業等の御協力をいただくことも、引き続き協議をさせていただいているところです。

現在、コベカツクラブの第2次募集を7月末まで実施しています。中間速報では201団体の御申請をいただいています。この後、審査を経て9月上旬には2次募集の結果を公表したいと考えています。その後、11月頃をめどに、必要に応じて、追加の募集も実施していきたいと考えております。

コベカツ推進に当たっての課題を、全部で6点挙げています。一つ目が活動団体の確保です。先ほどの説明と少し重複しますが、やはり1次募集の段階では現在の部活動でニーズの高い種目・活動のコベカツクラブの登録が少ないことや、西北神エリアについて、近隣校が遠いことやコベカツクラブの登録が少ないことを課題と認識しています。対応策としまして、まさに現在進めていますが、総合型地域スポーツクラブや文化芸術団体関係の皆様にも、大きな会合や、小・中学校といったより細かな単位の会合で、立ち上げの御支援や御相談をさせていただいているところです。あわせて、先ほど御説明させていただいたコベカツ人材バンクによるマッチングなどに取り組んでいます。

現在、2次募集の時点では、あくまでも審査前の数字にはなりますけれども、先ほど不足が見られる種目・活動でも挙げていました、吹奏楽や女子バレーは10を超える団体に御応募いただいています。あとは軟式野球、卓球も10団体程度の御申請をいただいています。その他の不足する種目・活動も徐々に御登録をいただいているところです。

また西北神エリアで1次募集の段階では登録がなかった学校につきましても既に御登録をいただいております、団体の登録を前向きに検討しているといったお声もいただいているところです。

二つ目の課題は情報発信です。児童・生徒・保護者には広報紙や教育委員会だより、すぐーる、ホームページなどで発信をしています。やはり保護者の皆様の中には、部活動が終了してコベカツが始まるということは聞いているけれども、具体的にどのようになるのか、この辺りがまだ分からないといったお声もお聞きしています。広報の充実につきましては、引き続きしっかりと取り組んでまいりたいと思っております。また、小学校・中学校からも児童生徒、保護者に対し、コベカツについて正確に説明をしていただくことも重要であると考えていますので、そういった取組も進めてまいります。

また地域住民、地域団体、競技団体の皆様につきましては、区役所や文化スポーツ局とも引き続き連携をしながら、周知の機会を確保していきたいと考えています。効果的な情報発信につきましては、広報戦略部とも相談しながら取り組んでまいりたいと考えています。

三つ目の課題が移動・送迎です。生徒がコベカツクラブに参加するに当たりましては、徒歩または自転車による移動を想定していますので、できるだけ在籍校または近隣校でのコベカツクラブの確保に引き続き取り組んでまいりたいと考えています。また、近隣校が遠い学校につきましては、もちろんできる限りその学校での確保に取り組んでまいりますが、あわせて、学校での放課後の柔軟な過ごし方の充実に図っていく必要があると考えております。例えば、文化的な活動の個人練習や図書館の開放、学習支援などに取り組むことも子供たちの居場所づくりとしては重要ですので、そういったものを見守る体制も含めて、それぞれの学校の実情に応じた取組を検討していきたいと考えております。

四つ目が受益者負担です。会費の設定に当たりましては、教育委員会事務局からも申請団体に、より低廉な会費とすることはできないか、個別に相談をさせていただきながら取り組んできているところです。1次募集の登録団体の月会費は平均すると、大体3,200円といった形になっています。あわせて、国に対しても財政支援や、生活

保護の支給対象とすることを要望していくとともに、教育委員会においても経済的に
お困りの家庭への支援について、引き続き検討していきたいと考えております。

また、できる限り安い会費設定となるように、例えば吹奏楽の楽器など活動にとっ
て不可欠な学校にある備品についても、コベカツクラブが使用できるように維持をし
ていく必要があるのではないかと考えております。

五つ目の課題が指導者の資質の確保です。コベカツクラブに登録された責任者や指
導者につきましては、毎年教育委員会が指定する研修を全員に受講してもらうことと
しております。

また、保護者の皆様が御不安に思われることや、活動が始まった後にちょっと疑
問に思われることがあると思いますので、そういった方々に向けた相談窓口も既に設
置をしております。安心・安全ホットラインといった形でこの辺りもしっかりと運営
をしていきたいと思っています。活動に疑義がある、そういった通報をいただいた場
合には、現地確認なども含めて行っていきたいと考えております。

さらに、指導技術の向上につきましては、公益財団法人神戸市スポーツ協会とも連
携して取り組んでまいります。

最後、六つ目は大会についてです。生徒の活動のモチベーションとなる大会やコン
クールについては、やはり何らかの形で維持していくことが必要であると考えており
ます。文化スポーツ局とも連携しながら教員以外の人材確保であるとか、教員が運営
に関わる場合の手法など持続可能な大会の在り方を引き続き検討してまいります。

部活動が終了し、教員が本来業務に注力することを通じて、子供が主役の授業への
転換を目指すとともに、子供たち自身がコベカツ参加を含めて、放課後や休日の過ご
し方を主体的に考えて行動できるように、子供たちへの支援をこれまでより一層充実
していきたいと考えています。

○久元市長

課題についての議論が今日は中心ですが、課題に入る前にその前提として、現在の

状況あるいは部活動からコベカツへの移行というのは一体何なのかということと、これまでの取組状況、それからそれも含めた今日の課題に入る前提としての事柄がありましたら、御質問、あるいは御意見でもいいですけど、出してもらえればと思います。が、いかがですか。

○正司委員

市長の質問にそのまま、ちゃんと答えられる発言になるか、ちょっと自信はないですけれども、部活動は昔からずっとみんなやってきたと思います。しかし中学校へ我々が見学に行かせていただいたときに部活動も見させていただきますが、やっぱりお子さんの数が昔の半分以下になったこともあって、随分変わっているなと思います。非常に慌ただしい練習時間で、「え、練習したの」という。1時間ちゃんとみっちり球を打てるわけではないし、楽器の音出しもですね、合奏もどこまでやれるのかなというような感じでやっており、非常に慌ただしい。そのような状況になっているので、例えば40代、50代の方々が経験した部活動と今の部活動は随分変わっていると思います。その意味で、この今の状況を考えたときに、新しいスタイル、そしてさらに選択肢が増えるようなこの移行は、神戸市は先行していますけれども、やっぱり時代の流れとして、こちらのほうがいいのではないかと思います。そこで大切なのは種目の種類というより、同じ種目でもさっきサッカーでもいろんなレベルがあって、それぞれニーズに合わせて対応できるようなことがありましたが、学校単位のクラブではその辺りがなかなか難しかったと思います。一つの部活の中にいろんなニーズの人が入っていたので、そうじゃなくなるということは選択肢がかえって広がるという意味で、そういう広がる方向へうまく作っていくことが大切かなと感じています。

○久元市長

そうですね。もう40代、50代、その上の世代も含めて、自分が経験した世界というのは、もう今は全くそういう世界あるいは光景ではないということイメージしてもらおうというのがなかなか難しいことなので、これはもう広報の世界で積極的に説明

していかないといけないですね。

それから、そもそもコベカツに移行する目的というのは、私が市政の一環として説明するときに、コベカツに移行するというのは教員の多忙化対策が目的ではないですと説明をしています。正司先生がおっしゃったように、もう部活動というものが子供の数の激減、クラスの著しい減少変化によって成り立たなくなっているという中で、どうしたら中学生に豊かな放課後の時間を過ごしてもらえるようにするのかということ、たくさんの市民の皆さんの知見や経験を生かして参加していただくような形で、これを実現するというのがこのコベカツの目的であって、そのことが結果として、教員の皆さんの多忙化を緩和することに結果的にはつながると考えられます、というような説明をしています。教育長、そんな説明でよろしいですか。

○福本教育長

全くそのとおりでございます。

○久元市長

ありがとうございます。

そしたらそれ以外にも前提としての御質問、御意見があれば、いかがでしょうか。

○本田委員

コベカツ自体が中学校の部活動の地域移行と言われていますけれども、もっと広く子供が放課後どういうふうに過ごしていくかということだと思います。子供の人数の減少もそうですけれども、子供たちの過ごし方の多様化というところも今の時代の流れで必要になってきているかなと思いますので、もう少し広く捉えて私たちは考えていく必要があるのではないかなとは思っております。

○久元市長

ほか、いかがでしょうか。

○今井委員

今のお話とちょっと重なりますが、副次的にその多忙化が緩和されることがあって、

それによってやっぱり先生方が本来の授業準備に注力できる、そして授業が終わった後にやっぱり今日見ていて気になった子供にちょっと声をかけてみる余裕が生まれる。あるいは、ちょっとどこかで何かが起きてそうだなと思ったらその課題を先生方でしっかり話し合ったりできる。子供たちがゆっくりゆとりを持って、放課後どこか集まってお話しできたりする。そういういろんな過ごし方が、コベカツへの移行の中で学校、コベカツ、あるいはそれ以外、いろんな形で、自分たちの居場所、本当に子供たちにとってよりよい場所がいろんなところでできていくことを目指して、今皆さんが頑張っているところだと思っていますので、本当にいい形で進んでいければと思っています。

○久元市長

ありがとうございました。ほか、いかがでしょうか。

○山下委員

今出していただいた御意見のとおりだと思っています。私も今の中学校の部活動を拝見して、自分たちが経験したものとやっぱり全く違う形になっているなという気がします。確かに御心配なされることの一つとして、例えば人間性を培ってきたのではないかと、礼儀正しさを培ってきたのではないかと、苦楽を共にする一生の友達ができるのではないかと冒頭に市長もおっしゃっていただいたとおり、御心配はあろうかとは思いますが、例えば今のお子さんたちを見ていると、本当に限られた短い時間の中で慌ただしく動かなくてはいけなくて、先週もお伺いした中学校で、急げ急げという言葉と同時に場所を移動されていて、こういう慌ただしい中で、我々がイメージしているものからは本当にちょっと変わってきたのだなというのを実感しているところです。

これまでクラブ活動では、どちらかというと、その試練を乗り越えたとしても、それは与えられた試練だったと思いますが、これからは子供たちにそれを選んでもらうというか、自分で選んだ試練というようなことをもっと明確にイメージしてもらえる

ような、好きなことをやる中で試練に出会って、それをどう乗り越えようかというような、受け身ではなくて、少し自分から働きかける能動的なものにできないかということは常々思っておりまして、その意味ではこのコベカツっていうのが、そういう子供たちの主体性を生かすような、そういう大きな枠組みとして、今までのクラブ活動とは違うというような位置づけで考えていく必要があるのかなということは思っています。

○久元市長

ありがとうございました。

○吉井委員

論点の一つとして、平日と休日で、各地域では休日から取りあえず試行的に始めましょうというところもあるかと思えますけれども、コベカツでは一応平日土日一体で進めましょうということで議論がまとまっています。これは子供の視点から考えれば、平日は学校でやって、土日は違うメンバーとやるということは非常に違和感があるということなので、やはり一体に設計してコベカツを進めるべきだというような議論がなされていますので、その点、我々も土日、それから平日ともに設計の中に入れてやるべきだろうというふうな議論になっております。

○久元市長

ありがとうございました。ほか、よろしいですか。私から質問してよろしいですか。

3 ページ、4 ページの資料は具体的にどういうふうに部活動がコベカツに変わるのかというのがイメージとして非常によく分かります。現実的にはこの4 ページに書いてあるものは、何となく現実的にそうなる可能性としてはあるだろうというのは分かりますが、3 ページのほうですよ。子供の数がものすごく激減しているわけでしょう。これからも減るわけでしょう。その減る子供が自分の中学校でやるグループか隣の中学校で保護者がやるグループを選択するということは分かれるということかと思うのですが、そんなことがあり得るのですか。少人数の中学生が二つに分かれたら、

どっちも成り立たないのではないかと私は思うけど。決して意地の悪い質問をするつもりではなくて、素朴な疑問ですよ。何故二つに分けられるのかという。

○教育委員会事務局部長（コベカツ推進担当）

学校が割と密集しているようなエリア、近隣校が近いようなところであったりとか、生徒数が多いようなところは、比較的こういった状況が生まれるかなとは思ったりしています。それ以外のやや学校間が離れているところというのは、ひょっとするとその学校にあるクラブの選択になるかもしれませんが、やはりいろいろ話を聞いている中では、例えばあの指導者がやっているから、あそこのクラブに行きたいなみたいな声は聞きますので、こういった移動というのはある程度生まれるのではないかなと考えております。

○久元市長

ですけど、それは部分最適な話で、一人ひとりにとっては選択したらできるに決まっているわけですよ。しかし、子供の数がこれから減っていく中で一人ひとりにとっては、選択の可能性が生まれたとしても成り立つのかということですよ。もともと成り立っていないですからね。成り立たないからコベカツに行くと言っているのに、これが二つに分かれて、そんなもの成り立つのですかということと、それから、もともと部員がたくさんいる学校を例にとるという説明は、子供の数が減るからコベカツへの移行なのに、極めて例外的な例を前提にして説明するのは適切なのでしょうか。教育委員会事務局部長にだけお答えいただくのではなく、教育次長ちょっとお助けください。

○教育次長

おっしゃるとおりでございますが、例えば現状でありますと、ここには今、A中学校の視点で書かせていただいておりますが、B中学校の子供たちにしてみたら、仮にサッカー部がなくて、サッカーをやりたかったのに例えば、バスケットだったり、バレーだったりというものを選択している子供たちも実際におります。だから、B中学校

の子供たちにしてみたら自分の学校にフットボールクラブができ、そしてもっと本当に競技性の高いところでやりたいと思ったらA中学校に移動するっていうことも、選択肢が広がるという意味では私どもとしては非常に有効な方法なのではないかなと思っています。

○久元市長

子供の数が減っているときに、こんなことで選択肢が広がるっていうのはきれいごとで、本当にこんなことがあり得るかということですよ、素朴な疑問として。

○教育次長

そうですね。もちろん全てのコベカツクラブがチーム編成できるかどうかというのは、増えすぎればまたそこには一つ課題は生じてくると思いますので、おっしゃっておりだと思っています。

○福本教育長

数的なことを目標には当初からしておりませんが、数字も必要かなと思います。今、部活動の数が男子も女子もということでカウントすれば市内に1,100弱あります。我々も当然少子化ということがありますので、やはり4分の3程度になるべきだと思っています。コベカツの場合、文化部とかを含めた数になりますし、文化部でしたら兼ねることもあります。また先ほどの例えばフットボールクラブでしたら、恐らくこれは9人要らないかもしれないですね。つまり、サッカーを親しみたいと、だから少人数でもやってみたいと。ただ、今の学校の枠組みでしたら、先ほど説明がありましたように、サッカー部で試合も目指しているにもかかわらず2学年で9人しかいない場合や、又裂き状態で目指すものが全く違う場合があります。コベカツの場合、レベルを変えることや人数の問題にも柔軟に対応できますし、今1次募集が終わって2次募集が終わって、これからも随時募集はしていきますけれども、恐らく数字的に分かりやすいために言いますが、4分の3程度には絞られると。1人が二つの部活動をするという多様なことも可能であればやらせてあげたいと思っていますので、そ

の辺りは少子化対策になっているのではないかと思います。

○久元市長

分かりました。

これで最後の質問にしますが、部活動の活動の種類ですよ。部活動の活動の種類というのは、今現に行われているものが部活動の活動の種類ですよ。今度コベカツに移行したときに、教育委員会があらかじめ、このコベカツの種目というのはこんなもんですよということを多分提示しているわけではなくて、コベカツクラブを登録することによってそれが決まってくるということですよ。そして、その種目が中学生の活動として適切かどうかということ、教育的見地も踏まえて、教育委員会が判断するという理解でよろしいですか。

○教育次長

おっしゃるとおりでございます。

○久元市長

ありがとうございました。

それでは、課題のほうに、今日はこれがメインですので、移りたいと思いますが、課題として、まず活動団体の確保、これつまるところ、人材の確保ということかなと思うのですが、課題は六つありますから、まずこの活動団体の確保、つまり人材の確保ということと、それから、指導者の資質の確保、1と5を一緒にして議論したいと思いますが、御質問、あるいは御意見おっしゃっていただけたら。非常にメインになる場所ですね。いかがでしょうか。

○正司委員

最初、移行のときに一体どれだけの数の活動団体が出てくるのかなというのは、正直全く想像がつかなくて、福本教育長が川西市の事例からこの程度の数になるのではないかとおっしゃっていた数を最初聞いたときにはそんなに出てくるのかなと思いましたが、実際には五百何団体も出てきました。結構出てきてくれているなと思いま

た。

ただ、現状の種目とのバランス、それから特に文化系では吹奏楽の楽器の問題があるのか、その辺りがあまり出てこなかったというのは確かに課題かなと思います。それで教育委員会事務局も関係団体とかいろいろな方に説明し、実際、今顧問として吹奏楽をやっている教員もいますね。その方々に働きかけて、組織、人材の確保を進めているところで、数は増え始めたのかなと思っています。今、各中学の大半に吹奏楽部がありますが、メンバーの数を聞くと、ちゃんとアンサンブルができるかどうかというような偏った楽器編成になっていることもあるので、ある程度、複数校でやるような形が、本当の吹奏楽を楽しむために必要ではないかなとも思います。そうすると、その形のところで、数を追い求めることは目標じゃない。ただ最低限、やりたい子たちが個人練習を平日にやって週末集まる、その程度の距離感のところでそのような体制がつかれるよう、現状努力しているとは聞いていますが、いま一度、さらにその努力は続ける必要があるのかなと感じています。

○久元市長

ありがとうございました。

事務局にお聞きします。吹奏楽の話が出たので、私の非常に限られた経験ですけど、いろんな施設ができて、オープニング式典で中学生の吹奏楽部・ブラスバンドが非常にいい演奏して盛り上がるわけですよ。揃っているわけですよね。別の施設ができてオープンしたら中学の吹奏楽が出てきて、揃っているわけですよ。今の正司先生のお話を聞いたら揃っているほうが珍しいということですか。つまり、もう標準的な楽器編成を組むことができる中学校のほうが少なくて、私が経験をする式典の演奏は、極めて例外的な場面に遭遇しているということなのかということです。

○教育次長

例外的ということではございませんが、以前に比べたらやはり編成がしにくくなっているというのは事実です。

○久元市長

ありがとうございました。

それに対してどう対応するかということですよね。吹奏楽について、どこかに書いていましたね。吹奏楽が少ない、それは楽器の問題というふうにさっき正司先生がおっしゃいましたが、吹奏楽について、応募が少ないのはどういうところに原因があるのでしょうか。

○教育委員会事務局部長（コベカツ推進担当）

楽器の問題と、恐らくちゃんと今の部活動でやっている吹奏楽部を引き継いでやっていけるだろうかと不安に思っておられる方が割といるのではというのがこれまでの印象です。我々が文化芸術団体の方々とお話しするときにも、今の部活動をそのまま引き継いでもらう必要はないですよと。例えば楽器に親しむだけでも、子供たちはそういうことを望んでいる場合もありますので、そういった活動でもいいですよという話をしていく中で、今、全体の活動団体が増えてきているような状況です。応募が出てきていないのは、部活動を引き継ぐという意識が残っているのかなというところは思っております。

○久元市長

ありがとうございました。ほか、いかがでしょうか。

○本田委員

先ほど、市長からもその活動が中学生にとって適切なのかというお話もありましたが、人材の質というところですが、現在の部活動も最初に説明があったように全くその教員がやったこともないスポーツや、例えば吹奏楽もそうかもしれないですけど、その楽器を知らないような方も部活動の顧問になっているという現状が多々見受けられるかなと思っております。実際このコベカツに移行する段階でより専門的な、よりそのスポーツに親しんでいる方から直接指導を受けられる機会というのが増えるのではないかなと、実際は考えております。確かにどのような人材かというところは、教

育委員会でももちろん精査したり、教育的な関わりもすごく必要だと思いますし、コベカツクラブにこれぐらい応募があるということすら私たちは予想できていなかったの
で、これからどういうふうなトラブルが起こるかというのなかなか予想ができない
ところもありますけれども、相談窓口をつけたりとか、すぐに何かトラブルシューテ
ィングができるような体制を構築していくというところは力を入れていかないといけ
ないのではないかと考えます。

○久元市長

ありがとうございました。

非常に重要な指摘ですよ。トラブルと言っていていいかどうか分かりませんが、予期
せぬいろんな出来事が起きる。そのときにさっき説明があったかもしれませんが、現
時点における相談窓口の考え方や方針がほかにあれば、教えてください。

○教育委員会事務局部長（コベカツ推進担当）

今、相談窓口として安心・安全ホットラインというものを設置しています。コベカ
ツクラブ運営事務局というのを設置をしまして、そこが安全・安心ホットライン
の窓口になっています。コベカツクラブが団体運営をするに当たっていろいろ不安な
こともあるでしょうから、そういったことの相談も受けますし、保護者からの御不安
も受け、我々教育委員会と一緒に解決をしていく、そういったことを考えてい
ます。

○久元市長

安心・安全ホットラインというのはもう既にできているのでしょうか。

○教育委員会事務局部長（コベカツ推進担当）

はい、設置しています。

○久元市長

さっき説明ありましたかね。どんなもので、今どんな相談があって、それに対して
どう対応しているのか、説明していただけますか。

○教育委員会事務局部長（コベカツ推進担当）

安心・安全ホットラインということで、既に設置しておりまして、具体的にはコベカツクラブの団体からの団体運営のことについての相談が主かと思います。それ以外にも保護者からの相談内容としては、今、自分の学校にはどんな活動があるのか、近くにどんな活動があるのか、そういったような問合せがあるようには聞いていますけれども、コベカツクラブ自体がまだ運用を開始していませんので、そういった指導者に対する相談みたいなことはまだ入っていないような状況です。

○久元市長

分かりました。それはよく理解できます。今は募集している段階ですからね。

問題は、9月からコベカツが始まったときに、本田先生からのお話では、実際に始まった後、様々な予期せぬ出来事が起きたときの相談というのは安全・安心ホットラインが移行するということですか。それともそのときには、どのような対応になるのでしょうか。

○教育委員会事務局部長（コベカツ推進担当）

引き続きこの安心・安全ホットラインがその相談窓口になるということで考えています。

○久元市長

よろしいですか。ほか、いかがでしょうか。

○今井委員

今、コベカツクラブ事務局を設置して、その立ち上げのサポートとかも含めてしていただくということで、この立ち上げのサポートは本当に大事なところで、やっぱりそういう運営の経験がある人ばかりではもちろんなくて、本当に身近にいる子供たちのためにコベカツクラブやってみようかなという人にとっては、まず人が集まってきてその連絡をどうするのか、お金の設定の仕方もどう計算したらいいのか、どう集金したらいいのかとか。今個人情報もすごく厳しいので、一からの本当にきめ細やかな、

立ち上げて運営していくときの模範例じゃないですけど、サンプルを含めてお伝えすることで、じゃあこれなら自分たちでもできるかなと安心して、またそこに関わっていただける可能性というのが増えてくるのではないかなと思うので、事務局には本当にそのきめ細やかなサポートをお願いできればと思っています。

先ほど、吹奏楽の例にも出てきましたけど、やっぱり、今の部活動と同じことをしてくださいみたいな話では全然ないので、本当に多様な子供たちがいる中で、今までのような週4日も5日も放課後の時間をとるという方法じゃなくて、週1回ぐらいちょっと体を動かしたいというニーズもあれば、週1回ぐらい何か文化的な活動をみんなで楽しみたいというような、もしかしたら、月1回でいい子もいるかもしれない。本当にいろんなニーズがある中で、そういうニーズに応じたいことを地域の方や保護者の方、いろんな方に御協力いただきながら、いろんな裾野が広がっていけばいいなと思っていますので、そこも含めてしっかりお伝えをしていければ、また2次募集、あるいはさらに追加募集があるかもしれませんが、そういうところで少しでも手が上がってくるところが増えるのではないかなと期待しています。

○久元市長

私が、今井委員のお話を聞いて、質問させていただきますが、コベカツクラブというのは初めから存在しているグループもあれば、これから自分たちの仲間で、例えば、サッカーが好きでずっと昔からやっている友達がいて、この前居酒屋で飲んでいたら、コベカツちょっとやってみようという話になったので、何にも分からないですがどうやって作ったらいいのでしょうかとかいろんな相談があると思います。そのときに多分そんな規約やルールみたいなものが要るのかとか、お金はどれくらい負担して、どれくらい徴収をするのがいいのかとか、最低何回くらいやればいいのかとか、いろんな疑問点が多分あると思います。それに対して標準的なマニュアルみたいなものは、用意してもらっているのでしょうか。

○教育委員会事務局部長（コベカツ推進担当）

活動内容とか、活動の頻度とか、その辺りは特に標準的なものがあるというものではないとは思っておりまして、先ほど今井委員からもありましたように、月1回の活動というのもあり得ると思っています。この辺りがしっかりとコベカツクラブを立ち上げようと思っている方々に伝わるように、今のコベカツクラブ事務局と一緒に各地域を回りながらお願いをしているところで、あわせて、規約の簡単な作成の在り方とか、会計報告をどういうふうにしたらいいのか、そういったものも含めて、コベカツ事務局でしっかりと支援をしていこうと思っています。

○久元市長

逆に言うと、今、コベカツ事務局が、登録があったときの疑問点に対してこんなことを答えていますよとか、何か具体的な事例で教えていただければありがたいですね。

○教育委員会事務局部長（コベカツ推進担当）

よく聞かれるのはやっぱり会計報告をどういう形でしたらいいのだろうかということで、それほど難しい会計報告を我々は求めているわけではないので、こういった様式で、こんな形で入ってくるものと出ていくものが分かればいいですよといったことを紹介することが多いかと思っています。

○久元市長

ありがとうございました。

1と5について、ほか、いかがでしょうか。

○今井委員

本当にお子さんって様々で、学校で1日過ごしたら、疲れたから家に帰ってゆっくりしたいけど、夜や夕方家に帰って、ちょっと落ち着いたときに30分とか1時間くらいオンラインでつながって、趣味とか関心を持っていることに、同じ気持ちを持つ子たちが集まって、そこにちょっと見守りの大人がいて、オンラインでつながっている話合いをしたり、発表したり、あるいは時にはそれに関連する何か創作をしてちょっと発表し合ったりと、そういう活動もいいなと思っていますが、今のところそう

いうコベカツというのは出てきてないですかね。

○教育委員会事務局部長（コベカツ推進担当）

オンラインでの活動もいくつか出てきておりまして、講座をオンラインで視聴できるものや、まだ出てきておりませんが、ひょっとしたら音楽の関係で、オンラインでレッスンをできないかみたいなことは、今、事業者と協議をしているところです。

○今井委員

例えば、疲れたからあとは家でちょっとゆっくりしながら、そういうのに参加したいというお子さんであるとか、あるいは外に出にくくなっているお子さんとか、家からオンラインで参加できるというニーズもきっとあると思うので、またそういう方向もぜひ御検討いただければと思います。

○久元市長

ほか、いかがでしょうか。

○本田委員

先ほどの子供の放課後の使い方ということで、子供の居場所づくりというところにも深く関わっていることかなと思います。活動団体の確保や、先ほどのような運営したいけどどうかなというような方々、費用面でのサポートとかいろいろ必要なことがあるかなと思います。神戸市でもそういう子供の居場所をつくるための支援というのをされているかなと思いますが、その辺りとどういふふうと一緒にコラボレーションできるのかなというところは質問したいなと思っていますところでは。

○久元市長

これは市として、こども家庭局と地域協働局になりますが、この両局がないので、代わりに私が。子供の居場所をとにかく作ろうということでやっており、できるだけ外遊びをする場所、森の幼稚園とかというのは、子供向けの場所ですけど、例えば森が生い茂っているところをきれいにする活動とかをこれから広げていきたいと思って

おりまして、そういうようなグループが既にあるわけですね。中学生も参加してもらっているところもあります。それから公園の中で木登りを、ロープで上に上がって下りてくるようなことをやっているNPOもありますから、そういう活動をもっと広げたいと思っているので、うまくマッチングできるような仕組みというのはこれから考えていきたいと思います。

○山下委員

今おっしゃっていただいたような、例えば、割と小さいお子さんを対象とするような市民団体の方々のところに、例えば中学生がサポートするような形で参加するということも十分あり得るかなと、今お話を伺って思いました。放課後の過ごし方ということで言うと、つい中学生が指導される立場ということばかりイメージしがちですけど、中学生がむしろ小さい子の世話をするとか何か教えてあげるってということもあっていいのかなということを今思ったので、ぜひ前向きなコラボレーションができればなということを感じました。

先ほどのお話の中では、今後、実際に活動が始まったときに、やはりトラブルはあろうかと思います。それはもうリスクマネジメントの範疇に入ってくると思いますが、事務局のチェック機能なりサポート機能って、やっぱり重要かなと思っています。あと中学生の声を直にすぐに吸い上げられるようなSNSを通じた相談体制の充実とか、あるいは大人に相談するのが難しいようだったら、中学生同士でそういったことを共有できるような仕組みも少し考えていく必要があるかなと思っています。部活動という意味では、学校の先生たちとちょっと距離ができるので、逆に先生たちに相談しやすくなるようなところも期待できるので、そこもうまく活用するような仕組みができればなということを個人的には思っています。

○久元市長

ありがとうございました。

それでは最後に市長部局のほうから、文化・スポーツの関係でコベカツクラブの発

掘とか、関係する団体についての協力要請とかどういうふうにしているのか、文化スポーツ局長から説明してくれますか。

○文化スポーツ局長

今、市長から言っていた形で、スポーツの関係は、うちは代表団体でスポーツ協会がございますので、そういったところが今個別のいろんなスポーツ団体に働きかけをしております、コベカツへの参加という形で要請をしております、今かなりの説明会をやらせていただいて、積極的に参加していただくような働きかけをしているところでございます。

それと文化の関係も、こうベ芸文というような形で神戸の文化を支えている方々に対して、それぞれの音楽とか芸術とかを指導している先生方も何とか関与したいという思いはありますが、どういった形で参加したらいいかということがあります。それぞれ個別で指導されておりますので、実際コベカツをやるとなると、3人くらいチームをつくってやらないといけない。その辺のハードルのところがあるというようなこともありましたので、そういったところの説明をちゃんとさせていただいた。あと説明会も2回くらいさせていただいて、そういった先生方にも今働きかけて、2次募集ではそれぞれの先生方もチームを組んで手を挙げていただくような形も出てきているところでございます。

○久元市長

それでは時間もありますから次の3番ですね。これは非常に大事な話、移動、送迎ですよね。これは場所の問題にとって不可欠ですよね、合わせてこの3についての御意見、御質問をお願いします。

○本田委員

先ほど市長も言われていたとおり、子供が少なくなってくるので、何かスポーツをしようと思ったときに移動距離がやっぱり問題になってくるのかなと。A中学校に行きたいけど結構遠いというようなことも起こり得るかなと思っていて、そこについて

は徒歩とか自転車でも行ける範囲なのかというところがあるので、先ほどのお話にも出ていましたけど、例えば在籍校で、スポーツだったら平日に何かしらのトレーニングをする、文化活動だったら自分たちの学校の中で比較的できることをしておいて、週末どこかで集まってというような柔軟なやり方も考えられるのかなと思いますが、安全面と移動距離というのはすごく課題かなと思っているところです。

○久元市長

分かりました。ほか、いかがでしょうか。

○山下委員

比較的大勢住んでおられるところは隣の中学校で可能なのでそこはそういうふうな手だてをできるだけ活用していければと思います。

問題なのがやっぱり少し人口の少ない地域で、これについては先ほど、本田委員がおっしゃっていただいたようなことを基本としながら、一つにはオンラインの取組で一人でも練習できるような、安全が確保できるような練習を平日にやってというようなことは考えていかなくتهいけないかなと思います。そういった面での通信機器等の提供とかは必要になってくるかなと思います。

もう一つはやはり、これも限界があると思うので、例えば主に文化系とかを想定しますが、一つの教室の中でいろんなことを同時並行でやる子がいてもいいかなと思っています。その中で先ほどのようなオンラインでのつながりで誰かに指導を受けていたりとか、今、実際大学では例えば、就職の面接を行ったり、あるいは講座を受けているような子たちがいて、その子たちはヘッドセットをつけて、一つの教室の中で、オンラインでいろんなところにつながっているというようなこともありますので、校内にそういう場所を設けて、さらには、今、一部の高校で居場所カフェと呼ばれる取組が進んでいるのですけれども、簡単なお茶菓子とかを準備して、地域のNPOの方になかなかすぐには帰りたくないというような高校生のたまり場にしてもらっているような例もありまして、そういうふうなことも中学校段階で考えていくことが必要か

なと考えています。

○久元市長

ほか、いかがでしょうか。

平日の個人練習は、これはもう生徒が勝手にやるのでしょうか。先生はもう特に関わらないという理解でいいですか。

○教育委員会事務局部長（コベカツ推進担当）

文化的な活動につきましては、ある程度安全が確保できるかなと思っているので、この辺りは、全く先生の見守りがなくていいのかというのは難しいところですが、何らかの形で子供たちが学校で自分たちの活動ができないかということを検討していきたいと思っています。

運動のほうはちょっとなかなか難しいかなと。

○久元市長

イメージとしては、今までだったら、その種目とかその演奏に通じるかどうかは別にして、顧問が横にいるわけでしょう、基本的には。ところが、コベカツでは、個人練習について指導するのではなくて、放課後に残っている子供たちの安全を見回る先生が一定程度おられる環境、つまり安全が確保された環境の中で、自由にサッカーの練習、野球の練習、バスケの練習、クラリネットの練習をすると、そんなイメージでいいですか。

○教育委員会事務局部長（コベカツ推進担当）

運動系はちょっと難しいかなというのは考えていまして、文化系であれば、ある程度、先生の見守りの中でできるかなと思っていますけど、運動系はずっと見守らないといけないという、やっぱり安全確保の面が課題かなと思っています。

○久元市長

それはそうですよね、確かにね。この前も落雷事故なんかもあったりしましたから、それはよく分かりました。ほか、いかがでしょうか。

○正司委員

新しいアイデアがあってもしゃべるわけではないですが、やっぱり市街地とそうでないエリアとの違いはあると思います。どうしても先ほどの位置の話とも絡むと思いますが、人口が少なく、小規模校がかなり離れた形で分散的にある状況だと難しいところがある。しかしこれは、今の部活動を残したら問題解決ですかということと全然そんなことはなくて、部活動自身も実際には成立していない状況になっていると考えられるわけで、むしろ中学校に行った子たちが体験格差に陥らないようにどうしないといけないのかという課題だと思います。そのときに、山下委員や本田委員のおっしゃったネットをうまく使うとか、今は部活動に入っていない子は学校に残らず帰宅部として帰るわけですが、平日はむしろ友達と一緒に学校で楽しく何か学業以外のことをやる、先生方が一般的な安全注意を学校として維持する環境の下で行うという、そういう形を組み合わせやっていくことだと思います。週末はある程度、顔を合わせてやれるようなところに、できる程度の規模のコベカツの組織を確保するという形にしないと、ある意味仕方ないのかなという気もしています。これはこの後、人々の住み方がどういう形に変わっていくのかという話、ないしは変えていくのかという話とも絡むかなと感じています。

○久元市長

ほか、いかがでしょうか。

○本田委員

直接、移動・送迎の話ではないですが、先ほどみたいに地域格差がある場合、今でもかなり部活動に制限があるということだと思いますが、最初のお話であった、今までの部活動というのは、学校側が用意しているというか、こういう部活動がありますよ、入りませんかということだったと思いますが、山下委員がおっしゃったように、子供の主体性で、自分たちの地域の学校を使ってこういうことをやりたいとか、こういうふうに放課後使っていきたいという新たなものが生まれる可能性もすごくあるな

と思っています。その辺り、子供たちと一緒にどういう放課後の使い方をするのか、
どういうふうなことを学校として、教育委員会としてできるのかというところで、移動・送迎の課題があるところは特に新しいものをつくっていったらなと思います。

○吉井委員

一般論ではなくて、神戸市に限って言うならば、資料の最後のところに北神エリアの地図がついています。まさに今の議論は、ここの議論に近い話だと思います。具体的にじゃあどうするという課題に私が答えを持っているわけではございませんけれども、ここをどういうふうに解決していくかというシミュレーションといたしますか、こういうモデルを作って、それが今後の普遍性につながるのではないかなと思います。ここをモデルにして、非常に過疎的な地域、遠距離の地域、ここに対してどういう課題を推進するのかということに一度トライしてみるのがあるのではないかなと思います。

○久元市長

これは私が申し上げるのがいいのか分かりませんが、北神エリアは自由校区というのですか、域外から通う生徒の数がかなり多い中学もあると。それから、交通手段として神姫バスで通っている子供がいる一方で、神姫バスがダイヤを間引いた場合や路線を短縮した場合に、地域コミュニティ交通をどういうふうに動かすのかというような問題とも関連するので、そこは市長部局もしっかり入った形で移動手段を確保することということで、これは学校によってちょっと事情が違いますが、いずれにしてもこの移動手段というのは少し考えないと。一つひとつ事情が違うと思うのですが、今、吉井委員の御指摘があった一つか二つの例でもいいと思いますけど、離れているところのコベカツをどうするのか、もし今の検討状況がありましたら説明してくれますか。

○教育委員会事務局部長（コベカツ推進担当）

離れている学校につきましては、全くコベカツクラブが登録されていないという状況にはなっていない、2次募集も含めると何らかの活動が確保できるようなことには

なっているかなと思っています。この辺り、審査も含めて今後になっていきますけれども、あわせて、やっぱり各学校での先ほど申し上げました文化的な活動であるとか、子供たちが例えばこんな活動がしたいという声が上がってくる中で、そういったものをするためのコベカツクラブを立ち上げる、それを地域とつないでいくみたいなことは我々もしていきたいと思っています。

○久元市長

ありがとうございました。

これは神戸市の所管外ということになりますけれども、北神エリア、あるいは神戸市西区といった農村地帯のエリアというのが兵庫県の大部分ですよ。神戸市の市街地、阪神、あるいは姫路とか明石、加古川のごく限られた市街地を除けば、兵庫県の大部分の地域というのはこういう農山村地域です。そこの部活動をこれからどうしていくのかというのは、兵庫県の教育委員会が考える話で、それはきちんと対応されると思いますけど、神戸は先行していますから、できれば神戸市のこの北神エリアについては、こういう対応をして、これはうまくいきました、これはこういう課題がやっぱり残りましたということは、多分ほかの兵庫県内の市・町にとっては参考になる、あるいはモデルケースになるかもしれないので、ここのエリアがいい形でスタートできるということになれば、それはほかの地域に対しても何らかの示唆になるというように思いを進めてもらえれば、ちょっと欲張ったお願いですけれども、ありがたいなと思います。

ほか、移動手段、あるいは場所については、御意見いかがでしょうか。

○今井委員

ちょっと北神と離れるかもしれないですけど、全体として今回コベカツがスタートすることで、お子さんがいろんなところに移動して、平日別の学校に行くお子さんが出てきます。夜暗いところを徒歩ないし自転車でお子さんたちが移動するという、それも今まで通っていないような道を、ということで、やっぱり本当にこのルートが安

全なのとか、今まで通学路は多分安全確認をかなり毎年のようにいろいろ見られています、この新たなルートというのが本当に大丈夫なのかというような視点での確認も必要ですし、例えばルート・沿線のお店やお家に昔ながらの子供110番の家や店の御協力をやっぱりお願いするような必要も出てくるのではないかなと思います。あるいは親御さんにはGPS機能のついた見守りアプリなんかの御利用をお願いするという形で、本当に総動員で安全確保を図っていく必要があるかなと。

あとこれも昔ながらかもしれませんが、ランドセルについているような反射材って、やっぱり夕方以降の移動となると、本当にああいう反射材とかが子供の命を守ることもありますので、そういうものをつけるのを徹底するとか、本当に一つひとついろんなことを考えていく必要があるのではないかなと思っています。

○久元市長

ミマモルメというのは神戸市の小・中学校でどれくらい普及しているのでしょうか。

○教育委員会事務局長兼教育次長

ミマモルメにつきましては、保護者負担が一部必要なアプリですので、今小学校の一部で普及しているという状況かと思います。

○久元市長

ということは、中学校はそういうのはないということですね。

○教育委員会事務局長兼教育次長

中学校で使おうと思えば使えますけど、恐らくほとんど使っていないと思います。

○久元市長

伊丹市は、子供がその前を通ったら分かるような仕組みをとっていますよね。伊丹市を参考にして何か検討できないですか、伊丹市と神戸市と防犯カメラは確か同じ機種ですよ、という話を問題提起したら、神戸市はミマモルメがありますから要らないですという説明を聞いたことがありましたが。誰か答えられる人いますか。

○福本教育長

ミマモルメは恐らく神戸市の場合、小学校では大部分のところが加入していて、いわゆる門のところで子供が出たら保護者のところで、ピッと鳴るという契約が月額３００円か４００円です。これはオプションで保護者が選ぶわけです。同じものが中学生もできているところがありますが、中学生の親に聞いたら、ほぼそれは要らないというような感じで、登下校の門を通過したかどうかということくらいしか、今はカバーできていないというのが現実です。

○久元市長

そうすると、そういうアプローチではなくて、やっぱり登下校の通学路とは違うルートで生徒が移動するとなったときには、そのルートの安全性を確保するというアプローチが大事ということですかね。

そうすると、その安全性を高めるために、例えば夜移動する生徒が出てくるといったときには、そのルートの街灯を増やす、あるいは防犯カメラをそこに新たに設置するということが必要になってくるということですかね。これは市長部局のほうで対応を検討します。

もう一つはスマホのＬＩＮＥで通報する、道路とか公園が壊れたときに通報するＬＩＮＥの仕組みがあって、そういうので通報してもらったらいいいですね。通報してもらったら、ここは子供たちが通っているけど、全然街灯がないので危ないとか、何かそういうのを通報してもらうようにしてもらったらいいいかもしれませんね。神戸市はどういうわけか、ＬＩＮＥの仕組みをまだちょっと十分普及できていないですが、完全にスマホで撮って通報できるようになっているので、そういうのもぜひ活用してもらえればと思います。

ほか、いかがでしょう。

もしなければ、市長部局のほうで、コベカツの場所として使えるような施設とかの利用可能性について、どういう準備をしているのか教えてもらえればと思いますが。

○文化スポーツ局長

今の文化センターや、今回、チャレンジで、ホールで吹奏楽のコベカツ活動ができないかという実証実験を今年度ピフレホールでやろうという動きをさせていただいております。あと、実は公民館等の体育館なんかもございますが、あまり利用率というか、稼働率もそんなに上がっていないところもありますので、そういったところはコベカツのスポーツ関係で使っていただくようなことはできる可能性があるのかなと。あと、地域交流センターとか小学校区単位であるような施設も活用ができないかというのは、検討していると聞いております。

○久元市長

大体、活動の場所の話になったら、今は地域福祉センター、今度、地域交流センターに名前を変えますが、これが大体出てくるのですけれども、もうそれだったら地域交流センターも今の5倍ぐらいに増やさないといけないのではということになるので、地域交流センターは難しいでしょうね、多分。もうちょっと違う場所、今の公民館とか、それから閑古鳥が鳴いているホールの稼働率も上げてもらうために大分工夫してもらっているのですが、ホールの稼働率も上がってきますが、空いているところ、時間帯ですよ。コベカツの活動時間と、それぞれの施設が空いている時間がうまくマッチするかどうかですよ。そういうことも含めて、体育館はほとんど使っているし、無理でしょう。ほか、どんな場所があるのかも含めて、より市長部局のほうでも場所の確保ということを考えてもらえればと思います。

それでは残ったテーマですよ、負担の問題です。負担の問題と、それから最後に大会の問題。まず、負担の問題について御意見、いかがでしょうか。

難しい問題ですけど、これはやっぱり今後の市民の皆さんからの意見などを聞きながら、また議会でもいろんな御意見も出てくるでしょうから、そういう御意見も聞きながらどうするのか。引き続きの検討課題ということにさせていただきますよう。

あとは大会ですよ。大会の運営手法については事務局から説明がありましたけど、質問とか御意見がありましたらお願いします。いかがですか。

○正司委員

恐らくこれは神戸市が先行する関係もあって、神戸市の中でやる大会だったら事務局と相談しながらこういう新しいタイプを認めて、子供たちが切磋琢磨できるチャンスを与えてほしいと言ったらあちら側も理解してくれると思いますが、兵庫県や日本全体の大会になると、神戸市の都合だけでシステムを変えにくいという答えが来るかもしれません。一方で、高校野球なんかでも合同チームが出たりしているので、全体としてやっぱり変わってきていると思います。学校代表じゃなくて、地域代表のチームを認める方向にやっぱり変わらなと思うので、これは働きかけというのが、地道ですけど、それしか手はないし、やっぱりそれを怖がらずにボールを投げ続けることが大切かなと思います。

○久元市長

正直この大会というのは、私も来賓で呼ばれることはたまにありますが、この大会は一体誰が中心になって、どのようにどういう経費負担で運営されているのかっていうのは正直分からないところがあります。今知っている人しか知らないわけでしょう。それはそれで回っているときはよかったけれど、こういうふうにもう部活動が持続可能でなくなったときに部活動の延長にある大会というのは、もう知っている人だけが知っていて、回っているっていうので本当にいいのかというのは根本的に疑問を感じますね。ただ、これについてはあまり発言をできる人もいないかもしれないですけども。

○文化スポーツ局長

今、こういった大会の運営というのは文化スポーツ局でも問題意識を持っています。今までどういった形でやっていたかという、ヒアリングをいろいろさせていただいていますが、やはり準備から考えると、とてつもない時間と労力を費やして、先生方がボランティアで今までやっておられたというのが実情ですので、それを今後本当にどのようにして大会というのを維持していくのか。神戸市の大会が終わったら次、

県の大会に行って、全国大会、芸術系はあんまりないのですが、スポーツ系は特にそういう形になっておりますので、どういった形で維持するか、来年の秋以降すぐ大会がございますので、その辺りは先生方に今ヒアリングしている段階ですけれども、やり方は検討していかないといけないなと思います。

○久元市長

確かに、中体連とかスポーツ大会は先生方がほぼ100%運営されているという実態があるわけですね。これをどうするのか、誰が主体的にどういうアプローチで考えたらいいかですね。これも検討課題とさせていただきます。

それから、吹奏楽連盟ってありますよね。神戸市は吹奏楽、それから合唱もレベルの高い中学、高校があって、そういうところが参加していい成績を収めていますよね。もし分かったらですが、吹奏楽連盟とか合唱連盟というのは、先生方ではないのでしょうか。

○文化スポーツ局長

先生です。吹奏楽は先生方。

○久元市長

先生方。同じでしょう。

○文化スポーツ局長

合唱の場合は、NHKがやっている合唱コンクールとか、ああいうのはそちらのほうで割とやっていただいているところありますが、吹奏楽なんかはやっぱり先生方がかなり。

○福本教育長

大会というのは、中体連主催と各競技団体主体と書いていますので、分かれていますように見えますけど、やっているのは皆先生です。先ほどの、大会に参加するのにクラブチームがどうかという議論については、ほぼ今、クラブチームの参加がもう認められつつありますので、ここの心配はないかなと思います。これは全国的な流れなの

で、もう近畿大会でも、全国大会でもクラブチームが参加。ただ問題は、大会運営をどうしていくかということかと思いますので、大会はやっぱり教師がほぼほぼやってきましたので、そのノウハウを皆持っています。我々としては一定過渡期の期間、大会を維持するためにはコベカツに関わろうと関わらざると、教員には一定の休日の出勤になりますので、それに見合う形でお願いをしながら大会を維持して、今後これは全国的な議論でどうなっていくかいうのと合わせながら、過渡期についてはそういう方向が一番無難なのかなと考えています。

○久元市長

ありがとうございました。

それでは、最後に情報発信ですよ。情報発信、広報でいかに理解を求めていくのか。あるいは、いろんな疑問に答えていくのかっていうそういう点ですけども、この点につきまして御意見がありましたらお願いします。

○山下委員

今までいただいていた御意見の中で、一番やっぱりちょっと驚いたというかちゃんと伝えなきゃと思ったのが、やっぱり部活動がなくなるという思いでおられる市民の方が結構いらっしゃったので、それは「いや、そうではないです」ということは何度も繰り返し説明していく必要があるかなと思っています。それも含めて、やっぱり市の広報にもお願いするところあるかとは思いますが、地元のマスメディアの皆さん方にも少し積極的に御協力いただけるようなことはないかなということは求めていきたいと思っています。

先ほどの大会の話ともちょっと関わりますが、大会は中学生にとってみたら、やりがいになり、あるいは目標になったりするものだと思いますが、そういう目標の持ち方もあるれば、身近な大人の人たちに認めてもらえるというようなことも、やりがいや目標になったりするかなと思いますので、活動の内容自体も積極的に地元の地域のメディアの方々に取り上げていただけたらすごくうれしいなと思っています。

そのことがひいては知名度の高まりとか情報発信にも関係しますし、あるいは全体の知名度アップに関わってくると思うので、そういったことが高まっていくことによって、コベカツが神戸市の一つのブランディングに貢献できるようなところがあればということは我々も目指しているところです。

○久元市長

やっぱり関連するイベントにコベカツに参加する生徒の皆さんに参加してもらおうと。この前も西神南でふわふわドームのオープニング式典をやったのですが、これは式典の司会も含めて運営をその近くにある中学校のクラブの皆さんが、確かVIPという学区内で活動しているそのクラブの皆さんが全部仕切っていただきました。ですから、そういう形で学内での活動を神戸市の式典に応用していただくというのはお互いに大変よかったなという気がしましたね。

それではもう時間が。

今日は、今西副市長にもずっと最初から最後まで御出席いただきまして、全体を通じて感想などがありましたらお願いいたします。

○今西副市長

初めて参加をさせていただきました。

コベカツは、本当に私自身の頃から考えても今の学校の状況が全く変わっていますので、できるだけ多くの子供たちに部活動に代わるような充実した放課後体験をしていただくと。それがいい子供の育ちになって、今回コベカツについては、いろんな地域の方々とか、いろんな方々と触れ合うきっかけが拡大しますので、地域の愛着も増すのではないかなというような気持ちも持っております。ただ、子供さんを持たないような市民の方におきましては、どうしても記憶が昔の状況になってしまっているということもあって、関係する子供さん、そして地域の方々、競技団体へのPRも必要ですけれども、あまり関わり合いを持たなくなった一般の市民の方々に対する状況が変わっているというような広報も大変重要だろうなと思いました。

ちょっと拙いお話で申し訳ありませんけれども、以上です。

○久元市長

ありがとうございました。非常にタイミングがいいことに、横には広報担当の企画調整局長も座っておられますから、ぜひこの広報戦略を含めてよろしくお願いをいたします。

それでは時間が来ましたので、マイクを事務局にお返しします。

○企画調整局大学・教育連携推進課

本日は活発な御議論をいただきましてありがとうございました。本日予定しておりました議題は以上となりますので、これをもちまして令和7年度第1回目の神戸市総合教育会議を終了させていただきます。本日はお忙しい中大変ありがとうございました。